日本プロセス化学会第 27 回理事会議事録

日時　2014 年 7 月 30 日(水)　12 時 00 分～17 時 00 分
場所　タワーホール船堀　302 会議室
出席　25 名（将来計画委員会日景尚睦氏と記録者山本康友氏が参加した）

議題

1　確認・報告事項

(1) 第 26 回理事会議事録（2013 年 12 月 12 日HP掲載）が承認された

(2) 2014 サマーシンポジウム準備状況が報告された
・例年より出展社数が増加したため会場を増やした。その分の施設使用料は出展の収入増分で十分カバーできる。
・事前参加登録 656 名。国内シンポジウムでは過去最高の登録数。
・ポスター発表 100 演題。
・情報交換会事前参加登録は 336 名。
・企業展示も過去最高に近い数 94。
・情報交換会におけるシンポジウムの紹介が多いため、式の冒頭、中間、中締めに 2 件ずつ分散させた。
・他学会誌への会告掲載、協賛について。関連学会の HP や学会誌に会告を掲載してもらうことはシンポジウムの宣伝に重要だが、学会によっては協賛する場合にのみ会告が掲載される場合がある。また協賛の条件として、当該学会の会員をプロセス化学会の会員と同じ参加費区分にする、というものもある。プロセス化学会としてはこのような形態の協賛には申し込まない。会告のみ出せる場合には活用する。これを基本線とし、協賛や会告の申し込みはシンポジウムの世話人がその都度判断する。

(3) 2014 ウィンターシンポジウム 12 月 5 日（金）富山国際会議場準備状況が報告された
・演者：1）富岡会長、2）富山県くすり政策課の上出課長「富山県におけるモノづくり」、3）富山化学の上原さん（女性）プロセス研究について、4）ポスター賞の受賞講演、5）富山県立大の五十嵐先生、6）中外製薬の岡本氏「バイオ・抗体医薬について」、をそれぞれご講演いただく
・シンポジウムは 12:30～、情報交換会は 17:00-19:00 の予定。遠方の参加者が帰れるよう、例年より少し早めの時間にする。
・シンポジウムと同じ会場で情報交換会を行う（ケータリング）。冬の北陸ということで、会場移動が無いようにするため。
・世話人は藤堂理事と富山県立大の中島範行先生。
・理事会は当日開催なら 11:00～。前日 17:00 ぐらいから開催の方が時間に余裕があって良いか。
・北陸における創薬関連セミナーは学生の参加、発表が活発。ウインターシンポに参加する学生に出前講義の本を配ることは可能か → 前向きに応じる。
・理事会が前日開催の場合は、富山大学などで理事の先生方に講演して頂ければ学生にとっても良い機会になるのでは。

(4) 3rd ISPC 2015 年 7 月 13-15 日（月-水）国立京都国際会館準備状況が報告された
・招待講演者の選出はほぼ終了。（後日、日本のアカデミア講演者として杉野目京大工教授を選出）会期は祇園祭の真っ最中のため、宿泊予約は早めに。

(5) 第 9 回プロセス化学ラウンジ 2014 年 12 月 12,13 日（金土）湯河原準備状況が報告された
・例年の木金開催では、ご講演いただく先生方が用務等で全日程参加できないケースが見られた。今年は講演を金曜 1 日で終わらせるスケジュールにして、多くの参加者が全日程参加できるよう配慮した。

(6) 日印プロセス化学コンファレンス報告がなされた

ICC との合同会：Hotel Ramada on Juhu Beach in Mumbai 2014 年 1 月 29-31 日（水-金）

・講演者は印 11 名、日 10 名。参加者は印 80-100 名、日 34 名。現地の日本人参加者 2 名。

・要旨は JSPC HP で公開中。

(7) 日本薬学会第 134 年会(熊本)シンポジウム実施が報告された

・2 時間枠で 3 名の講演。今年度は会場が分散しており、また会場の収容人数も例年の倍程度だったため満員とまではいかなかったが、例年とほぼ変わらない参加人数で盛会であった。

(8) 地区フォーラムについて報告された

・東四国地区は 2009 年に立ち上げ 6 年目。当初は年 4 回、最近は年 3 回のフォーラムを継続的に開催している。有機化学を専攻している学生が多い地域ということもあり、「プロセス化学の次世代を担う人材育成」を掲げている。

・2 年に 1 回、双方向性のセミナーを企画している。2014 年度は 6 月 14 日に第 1 回目を開催。プロセス化学演習や、コスト計算等に関する講演・演習を行った。第 2 回目はパネルディスカッション形式。第 3 回目は大日本住友の高橋理事に打診中。

・参加者は 80-100 名。学生の参加も多く活発な地区フォーラム。

・鹿島地区は無期限の活動中断。地区内企業のプロセス部門転出のため。

・富山地区は大学・企業が集中している。東四国地区をモデルケースとして、学生も多数参加する活発な地区活動を今後展開していく。

(9) JSPC表彰委員会について報告された

・理事の任期は 3 年を基本とする。交代後、1 年の期間を置けば再任は妨げない。

・理事を交代後は顧問を依頼。顧問の理事会への参加は妨げない。

(10) 編集出版委員会について報告された

・橋本監事編集の「プロセスケミストのための化学工学」：執筆者がほぼ決定。「ガス処理」の項目が未決定だが、適任者が無ければ項目をカット。原稿もほぼ集まっており、出来上がり約 200 頁。内容としては、大学院生というよりも企業の若手研究者向けか。出版社は塩入名誉会長と橋本監事で継続協議。

・有合化と JSPC の共同企画：「化学者たちの感動の瞬間（有合化編集）」の企業版を構想中。各種シンポジウムにおける受賞講演を参考にして、執筆者をリストアップする。また「大学に求める 10 の反応（仮題）」として、企業側の要望する反応を大学側に提言する。出来上がり約 200 頁の予定。概要を固め、今秋ごろに化学同人と協議する予定。

(11) その他　出前講義：会員について報告された

・出前講義の認知度を上げるため、JSPC HP で出前講義の項目を分かり易くする。

2　協議事項

(1) 2013 年度(2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日) 決算案：資料 1 が承認された

(2) 2014 年度予算案：資料２が承認された

(3) 2014 年度通常総会次第案：総会資料が承認された

(4) 2014 サマーシンポジウムJSPC優秀賞選考委員の選出が承認された

・選考委員は 8 名。受賞者発表後に選考委員を公表する。

(5) 2015 徳島ウィンターシンポジウムが承認された

・2015 年 12 月に Pacifichem があるので、2015 ウィンターシンポジウムは例年より早めて 11/27 に開催予定。会場は徳島大学の長井記念ホール（300 名収容）。理事会も同所。情報交換会会場のホテルへはバス移動の予定、現在ホテル側と協議中。

(6) 2015 3rd International Symposium on Process Chemistry (ISPC) が承認された
京都国際会議場　July 13 (Mon)-15 (Wed) 2015

(7) PACIFICHEM 2015 - Honolulu, Hawaii, December 15-20, 2015 が承認された
New Horizon of Process Chemistry by Scalable Reactions and Technologies

・Organizer は富岡会長、塩入名誉会長、佐治木副会長、コロラド州立大学の Robert M. Williams, 台湾国立精華大学の Reuben Jih-Ru Hwu、Merck の安田修祥氏。
・1 day symposium になる見込み。その場合 14-15 名の演者。
・演者への旅費、講演料は一切無しだが、企業の方には積極的に申し込んで頂きたい。
・シンポジウム番号は#426。Pacifichem Web に情報が出ている。
・JSPC から夕食会に援助する。

(8) 日本薬学会第 135 年会(神戸)シンポジウムが承認された
・薬学会は大学、企業、学生と参加者が幅広いので、より広い分野を対象とした。現在シンポジウム申請中。演者からはご内諾頂いている。会場は 300 名規模で申し込み中。
・将来計画委員会からの提言：シンポジウムは 2 年に 1 度の開催が妥当では。内容も学生向けというよりは企業向けであり、サマー、ウインターシンポとあまり変わらない。ランチョンセミナーにすれば学生も多く参加するのでは。

(9) 日本化学会（日大船橋）シンポジウムを取り組まないことにした
・今年度は開催の予定はない。薬学会と同時期なので、薬学会でシンポジウムを開催する場合は演者の問題もあり化学会での開催は難しい。薬学会が隔年開催になるのであれば、化学会と交互に開催する、というのも一案。

(10) 地区フォーラムについてが承認された

(11) JSPC表彰委員会についてが承認された

(12) その他
・ 2015 ラウンジ、2016 サマーシンポジウムが未定。ラウンジは味の素に依頼中だが、Pacifichem とウインターシンポがあるので、開催そのものも含めて開催時期を検討中。

文責　富岡清

資料1

資料2

資料3　　編集出版
実践プロセス化学：化学同人より 2013 年 8 月出版
有機合成化学協会との合同企画：進行中

資料4　　出前講義：医薬品のプロセス化学
2014　3 件　120 冊（本日現在）
2013　6 件　315 冊
2012　7 件　375 冊
2011　4 件　180 冊
2010　6 件　250 冊
2009　4 件　213 冊
2008　7 件　562 冊
2007　3 件　90 冊
2006　14 件　620 冊
2005　3 件　300 冊
　計　　3025 冊

資料5　会員入会状況　　賛助会員108社　正会員333名　学生会員40名

理事の任期と交代　今期第27回理事会で大筋を決める（3年を任期の基本とする）

アカデミア理事4名から2名
秋山 隆彦*4 ： 学習院大学 理学部 教授
尾野村 治 ： 長崎大学 薬学部 教授*
○宍戸 宏造 ： 徳島大学名誉教授　2015Winterを潮に
○只野 金一 ： 慶応義塾大学名誉教授・京都薬科大学客員教授　有機合成化学協会副会長
　○顧問をお願いする
　理事候補：将来計画委員会の赤井先生

企業15名から3,4,5名
稲葉 隆之 ： 日本たばこ産業株式会社 医薬総合研究所 生産技術研究所 所長 *
大野 桂二 ： 和光純薬工業（株）試薬事業部 試薬開発本部 試薬研究所 所長*
○岡田 稔 ： アステラス製薬 技術本部 合成技術研究所 所長*
●小原 義夫 ： 日産化学工業株式会社 理事・化学品事業部副事業部長*　山田理事に交代
○加々良 耕二 ： 大原薬品工業 医薬開発研究所 所長 *
加藤 敏久 ： 味の素 常務執行役員
加藤 昌宏 ： 中外製薬 製薬研究部 部長
貴志 直文 ： 第一三共株式会社 プロセス技術研究所 所長*
田上 克也 ： エーザイ 原薬研究部 部長*
高橋 和彦 ： 大日本住友製薬株式会社 技術研究本部 プロセス化学研究所所長 *
○藤堂 洋三 ： 富山化学 富山工場 工場長 *2014Winterを潮に
橋本 秀雄 ： 武田薬品工業 CMC研究センター 製薬研究所 所長*
○間瀬 俊明 ： Meiji Seika ファルマ株式会社 医薬研究所 化学合成研究室室長 *
丸山 庄治 ： 田辺三菱製薬（株）CMC本部 プロセス化学研究所 所長*
満田 勝 ： （株）カネカ QOL事業部 研究チームリーダー*

　理事候補：安藝先生（大塚）徳島フォーラム

副会長　毎年お一人交代
鴻池 敏郎*1 ： 大阪合成有機化学研究所 顧問 *
佐治木 弘尚*2 ： 岐阜薬科大学 教授*
○ 左右田 茂*3 ： office Well SODA *
　○ 特別顧問：左右田先生
　副会長候補：

会長
○富岡 清　ISPC 2015を潮に